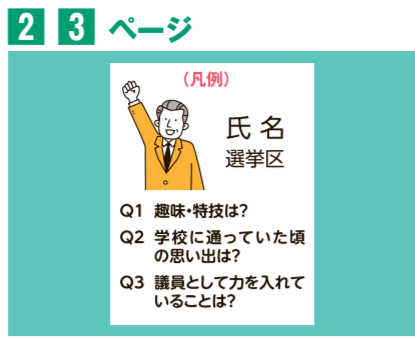


みえ県議会新聞は、年に2回発行しています。
NO.2では、令和5年度の議会の取り組みや三重県議会議員について、次のとおり各紙面でお伝えします。



第2回みえ現場de県議会を開催



県議会議員の紹介



第1回みえ現場de県議会を開催

もくじ
1 ページ 第2回みえ現場de県議会
2 ページ 議員の紹介
3 ページ 議員の紹介
4 ページ 第1回みえ現場de県議会

みえ 県議会新聞

令和5年度(2023年度)NO.2

第2回みえ現場de県議会を開催

三重県議会では、県民の皆さんの多様な意見を県議会での議論に反映していくため、テーマを設定し、県民の皆さんから直接意見を聞く「みえ現場de県議会」を平成22年度から開催しています。令和5年度は、若者を対象に2つのテーマで開催しました。第1回の概要については4ページをご覧ください。

「若者の人口流出について～若者に選ばれ続ける三重県をめざして～」

第2回は、「若者の人口流出について」をテーマに、令和6年2月15日、川越町中央公民館で開催しました。当日は若者の就職・進学に関する考え方や三重県の将来像について意見交換を行いました。

参加者

- 三重県出身の20歳から37歳までの方 10人
- 三重県議会議員(議長、広聴広報会議座長(副議長)、広聴広報会議委員、政策企画雇用経済観光常任委員長) 12人



【就職・進学について】

高校2年生の生徒にアンケートをした。進学希望は県内か県外かを聞いてみると、3割が県内、7割が県外だった。一方で就職希望はどちらか聞くと逆転し、6割が県内、4割が県外だった。進学は県外へ行きたいが、ゆくゆくは戻ってきたいという感覚が少なからず高校生段階ではある。ただこれが県外に行くと県外の生活に触れると、そこに残りたい人が多くなり、戻ってこないということだと思ふ。

【就職支援について】

就職支援の対象者の実態を把握することは基礎自治体では難しい。県が県外大学と就職支援協定を締結しているの、そこでUIターン就職を希望している人たちのニーズをちゃんとつかんで離さない工夫が必要だと感じた。

【感想】

さまざまな世代、私は大学生で、他に大学院の方がいたり、社会人の方もいたりする中でも、共感する部分が多かった。ということは、皆さんからすると若者というのは意外と小さくくりかと思われのかもしれないが、三重県のすごくたくさんの方が共感する、たくさんの方が思っている課題とらえられるのではないかと改めて感じた。



【子育てについて】

現在、夫婦で子どもを持つことについて真剣に話しているところ。保育園については、世間でいうほどの入園の厳しさは三重県はないが、子育ての支援についてしっかり発信してほしい。真剣に調べている自分でも、補助の情報が全く分からない。情報発信に力をいれてもらえたら、子どもを産んで育てようという気になるかもしれない。

【就職活動について】

合同就職説明会に行っても三重県の企業は少ない。就職してからたくさんの中企業と関わる中で、いい企業がたくさんあることに気づいた。それを大学時代に知っていたらもう少し違うと思う。



みえ現場de県議会

※意見交換の中から主な意見を掲載しています。当日の概要は三重県議会ホームページをご覧ください。

みえ高校生県議会を開催します

三重県議会では、高校生に議会活動の体験を通じて議会への関心を高めてもらうとともに、高校生の意見を議会での議論に反映していくことを目的として「みえ高校生県議会」を開催します。

開催日 令和6年8月21日(水)
場所 三重県議会議事堂 議場



募集対象

県内の高等学校、特別支援学校高等部および高等専門学校に通う生徒で、1校あたり2～4人、合計8校程度(各学校1グループまで)。学校を通じて応募してください。

募集期間 令和6年3月1日(金)～5月7日(火)(必着)

※募集校数を超えて応募があった場合、抽選となります。詳しくは、三重県議会ホームページをご覧ください。

↓詳細はHPをご覧ください
みえ高校生県議会



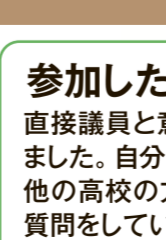
前回のみえ高校生県議会では、こんな質問がありました。(一部抜粋)



三重県の医療分野における南北格差について



三重県の防災訓練・避難訓練の強化に向けて



聴覚障がい者が安心して暮らせる街づくりについて



前回の動画はこちらから↓

参加した高校生の感想

直接議員と意見を交わすことができ、貴重な経験となりました。自分の考えを客観視できました。他の高校の方々も、自分たちとは観念の違うところから質問をしていて、すごいと思いました。

